

令和4年

第2回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

令和4年第2回仙北市議会定例会 市政報告

令和4年第2回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、一般会計補正予算(第11号及び第12号)についてです。

第11号の補正額は、1億2,000万円、補正後の額は231億7,727万8千円で、追加事業は冬期交通対策費です。この冬の除雪出動状況、今後の降雪見込みなどから、除雪委託料等の不足が見込まれるため定例会初日の議決をお願いするものです。

第12号の補正額は、1億8,143万3千円の追加で、補正後の額は233億5,871万1千円です。主な事業は、地籍調査事業費、減債基金積立金、生活バス路線対策費、障害者自立支援給付費、病院事業会計補助金、農地集積加速化基盤整備事業費、農地中間管理機構関連ほ場整備事業費、FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会負担金などです。第2表繰越明許費補正は追加、第3表地方債補正は変更及び廃止です。

それでは、各部局等の主要事項及び諸般の状況を報告します。

【総務部】

◇ふるさと納税について

全県の12月末実績で、仙北市は約9億9千万円で全県トップでしたが、対前年同月比では74.6%と落ち込んでおります。県内の他市町村との競合激化により、シェアの50%近くを占める楽天サイトでのランキングが思うように上がらず、露出が減ったことが要因と捉えております。2月10日現在は約10億4,000万円で、年度末の総額が約12億円と見込まれるため、本定例会最終日での予算減額を検討しております。

◇仙北市地域公共交通計画の策定

令和4年度からの5年間を計画期間とした仙北市地域公共交通計画の策定にあたり、市民意識調査の実施、公共交通座談会の開催など、できる限り市民の生の声を反映させるよう努めております。

計画案は、今後、関係機関や地域の代表で構成される仙北市地域公共交通会議で審議されます。議員の皆様には、本定例会中に、ご意見をいただく機会を設けるように考えておりますので、よろしく申し上げます。

◇男女共同参画社会の形成について

これまで同一の委員会でも所管しておりました、社会全体としての男女共同参画の実現、女性活躍推進法に基づく女性の活躍推進の2つを、令和3年度から、それぞれ別々に仙北市男女共同参画推進委員会、仙北市女性活躍推進協議会で専門的に議論をしています。

現在、年度末に向けて、令和4年度からの5年間を計画期間とした第4次男女共同参画計画の策定を進めています。

◇デジタル人材育成講座発表会について

1月29日、デジタル人材育成講座の成果発表会がオンラインで開催されました。本講座は地方創生推進交付金を活用して今年度から実施しているサテライトオフィス誘致促進事業におけるデジタル人材育成の一つのメニューとして実施しました。スマートフォンアプリの開発体験を通してITスキルの習得をめざす高校生から社会人の受講生10人が3チームに分かれて、地域課題を解決するスマートフォンアプリを開発し、その内容を発表しました。

◇企業版ふるさと納税の活用に係る大臣表彰について

2月10日、アステリアは本市との「企業版ふるさと納税の活用」による平成28年以降の連携に係る取り組み等に関して顕著な功績を上げ、他の模範と認められる活動であるとして、内閣府特命担当大臣から表彰

されました。

◇企業版ふるさと納税目録贈呈式について

「地方創生に関する連携協定」を締結している、あいおいニッセイ同和損害保険から企業版ふるさと納税寄附金の申し出があり、2月2日、田沢湖庁舎において目録の贈呈式を開催しました。

◇雪害事故について

1月23日に西木町西明寺で、1月27日に田沢湖田沢で、2月10日に角館町小勝田でそれぞれ70代、40代、60代の男性が屋根の雪下ろし中に落下し、重傷となる事故が発生しております。

また、1月25日、田沢湖生保内で70代女性が自宅屋根からの落雪の下敷きになり、重傷となっております。

2月8日には田沢湖刺巻で、60代女性が自宅敷地内を除雪中、足を滑らせ川へ転落し、重傷となる事故が発生しております。

◇火災について

1月27日、角館町西長野でビニールハウス火災が発生しました。出火後約50分で鎮火しましたが、出火元のビニールハウスと椎茸原木1,210本が焼失しました。

また、2月4日、田沢湖田沢でぼや火災が発生しました。出火後約30分で鎮火しましたが、木造平屋建て住宅の一部を焼損しました。

2月11日には、角館町雲然碓で建物火災が発生しました。出火後約30分で鎮火しましたが、出火元の車庫兼物置の一部が焼損しました。

それぞれ火災による人的被害はありませんでした。

【市民福祉部】

◇住民税非課税世帯等に対する各種支援策について

昨年7月から12月まで実施の「新型コロナウイルス対策生活応援商品券事業」については、6,159件の申請・発券で、換金額は6,100万

5千円です。対象者見込みに対し約85%の申請・発券となりました。

「生活応援灯油暖房費助成事業」については、1月初旬から申請受付を開始し、2月4日時点で768件の申請がありました。

「住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業」については、対象世帯に2月中旬までに確認書を送付し、返信を受け2月下旬から順次口座に振り込む予定です。

◇子育て世帯への臨時特別給付金給付事業について

新型コロナウイルスの影響に伴う経済対策として、18歳以下の児童1人あたりに10万円相当を給付する事業で、市では全額を現金給付としております。児童手当受給世帯等には、昨年末に先行給付を行い、追加給付については、1月28日から振込を開始しております。

◇保育士等の処遇改善について

国の経済対策事業として、新型コロナウイルス感染症と少子高齢化への対応が重なる最前線で働く方々の処遇改善策が創設されました。

市としても保育士等の処遇改善策を検討し、定例会最終日に関連予算の追加提案を予定しています。

なお、私立認定こども園及び家庭的保育施設に対しては、処遇改善を図るための所要経費を補正予算に計上しております。

◇赤ひげ大賞の受賞について

この度、日本医師会主催の第10回「赤ひげ大賞」で、市川晋一西明寺診療所所長が「赤ひげ大賞」を受賞されました。

これは、地域の現場で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰するもので、長年にわたり地域住民の健康のため真摯に取り組まれた市川先生の活動が評価されたものです。

表彰式は、3月18日に東京都の帝国ホテルで行われる予定です。

【観光文化スポーツ部】

◇入り込み客数等について

令和3年1月から12月までの年間入り込み客数の速報値は232万2,369人で、令和2年の218万1,868人の106.4%となりました。また、宿泊者数の速報値は合計32万4,165人で、昨年の34万6,395人の93.6%でした。

◇日本百名月について

1月17日、一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューローが主催する「日本百名月」の第8回認定登録で、「田沢湖にのぼる月」として、仙北市田沢湖が82番目の認定地として登録されました。

本市でも、田沢湖でのお月見を新たなコンテンツとして位置づけ、今後の誘客に活用したいと考えております。

◇プレミアム観光支援事業等について

昨年7月22日から開始した仙北市プレミアム観光支援事業による「田沢湖・角館まるごとお土産券」が12月31日に終了しました。利用率は87.0%で、予定枚数10万枚のうち8万6,983枚が利用されました。

また、同じく7月22日から開始したプレミアム宿泊支援事業による「お得に泊まろう・夏割キャンペーン」が12月31日に終了し、利用率は85.4%、抽選で配布された3,000枚に対して2,562枚が利用されました。

◇小正月行事、冬のイベント等の状況について

新型コロナウイルス感染症への対応で「角館の火振りかまくら」、「なろか」、「中里のカンデッコあげ」は規模を縮小、「白岩城址燈火祭」、「田沢湖高原雪まつり」、「松葉・相内の裸参り」は中止となりました。

なお、イベントとしては中止としたものの、「上桧木内の紙風船上げ」は伝承のため地域行事として行いました。

【農林商工部】

◇仙北市技能功労者表彰について

2月3日、技能者の社会的・経済的地位及び技術水準の向上と本市産業発展に資することを目的に、優秀な技能者を表彰する仙北市技能功労者表彰を行い、畳製作分野で尾形祐之介(おがた ゆうのすけ)さん、建築大工分野で草薙芳春(くさなぎ よしはる)さん、建設機械分野で菅原誠(すがわら まこと)さんが受賞されました。

◇プレミアム商品券について

新型コロナウイルス感染症の影響による地域経済での消費喚起や生活支援のための仙北市民プレミアム商品券は、1月20日で換金申請受付を終了し、商品券換金率99.8%、換金額3億8,935万2千円となっております。

◇経営維持支援金について

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内の事業者の事業継続を支援する仙北市経営維持支援金は、1月14日で交付申請受付を終了し、申請件数565件、交付決定支援金振込額5,610万円となっております。

【建設部】

◇道路事業期成同盟会について

国道46号盛岡秋田道路及び国道105号大曲鷹巣道路の要望活動は、1月19日岩手河川国道事務所、1月20日秋田県、秋田河川国道事務所、1月24日東北地方整備局へ実施しました。国土交通省、財務省、地元選出国會議員への要望は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、対面を取り止め要望書の郵送対応としております。

◇生活排水処理事業の広域補完組織の設立について

現在、県では県内市町村の生活排水処理事業が抱えている技術職

員の不足、老朽化施設の増大、人口減による使用料収入の減少などの問題を改善させることを目的とした全県レベルの広域補完組織の設立を計画しております。組織は、官民出資の会社とし、今後、必要な手続きや各機関との合意形成を図り、令和4年度末までに各市町村と協定を締結し、令和7年度からの運用開始を目指しております。

【医療局】

◇新型コロナウイルス対応病床について

角館総合病院では、県から緊急フェーズの設定に伴う感染者病床増床の要請を受け、最大病床数11床を2床増やし13床とすることで県に報告しております。

既に、増床に係る設備改修を終えており、県内でもオミクロン株による感染の急拡大が発生していることから、引き続き県からの要請に迅速に対応できるよう努めてまいります。